

平成16～20年度液化石油ガス需要見通し

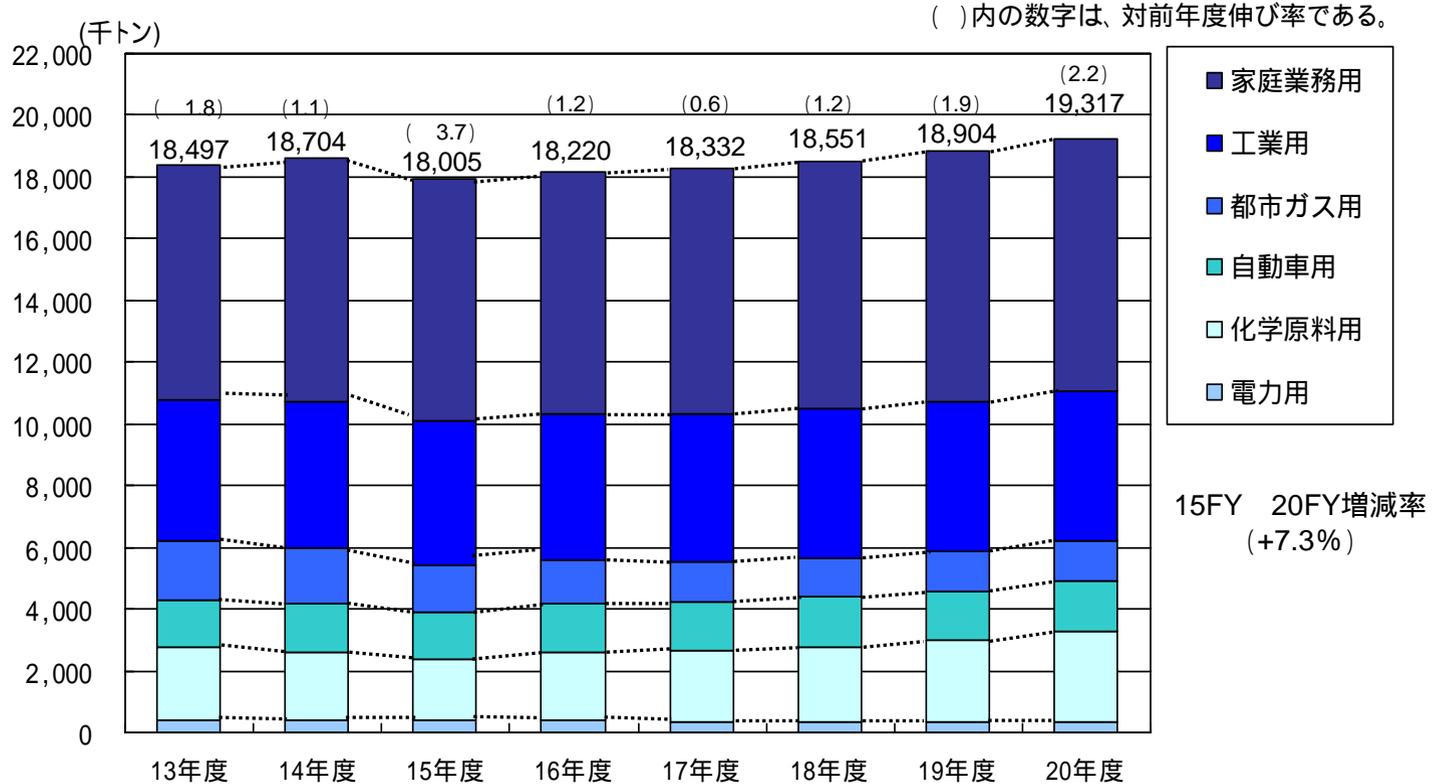
平成16年3月26日
石油製品需要想定検討会
液化石油ガスWG

平成16～20年度液化石油ガス需要見通し

(単位:千トン, %)

	実績	実績 見込み	見通し					年平均 伸び率 (15/20)
	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
家庭業務用	7,897 3.9	7,820 1.0	7,835 0.2	7,917 1.0	7,990 0.9	8,097 1.3	8,177 1.0	0.9
工業用	4,834 2.6	4,791 0.9	4,822 0.6	4,875 1.1	4,899 0.5	4,923 0.5	4,928 0.1	0.6
都市ガス用	1,826 4.4	1,482 18.8	1,403 5.3	1,324 5.6	1,286 2.9	1,292 0.5	1,328 2.8	2.2
自動車用	1,536 0.4	1,539 0.2	1,562 1.5	1,574 0.8	1,589 1.0	1,609 1.3	1,639 1.9	1.3
化学原料用	2,234 5.0	1,965 12.0	2,225 13.2	2,329 4.7	2,474 6.2	2,670 7.9	2,932 9.8	8.3
電力用	377 3.6	408 8.2	373 8.6	313 16.1	313 0.0	313 0.0	313 0.0	5.2
需要合計	18,704 1.1	18,005 3.7	18,220 1.2	18,332 0.6	18,551 1.2	18,904 1.9	19,317 2.2	1.4

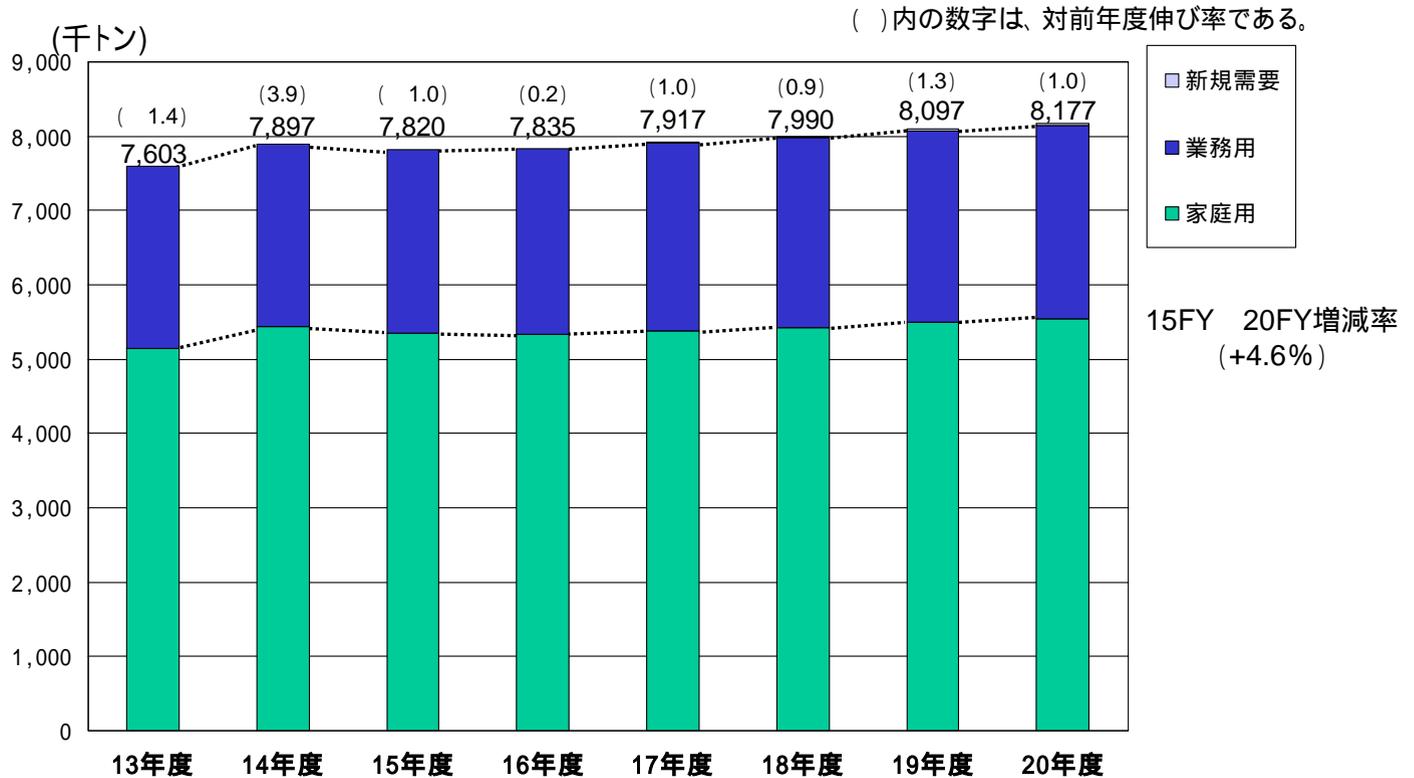
平成16～20年度液化石油ガス需要見通し(総括)



16年度は、LPガス器具普及の進展等による家庭業務用の増加、景気回復に伴う産業分野の増加等により、前年度比1.2%と増加し、18,220千トンとなる見通し。17年度以降は、家庭業務用、産業分野の増加等により、平成15～20年度の年平均伸び率で1.4%と堅調に増加し、20年度は19,317千トンとなる見通し。

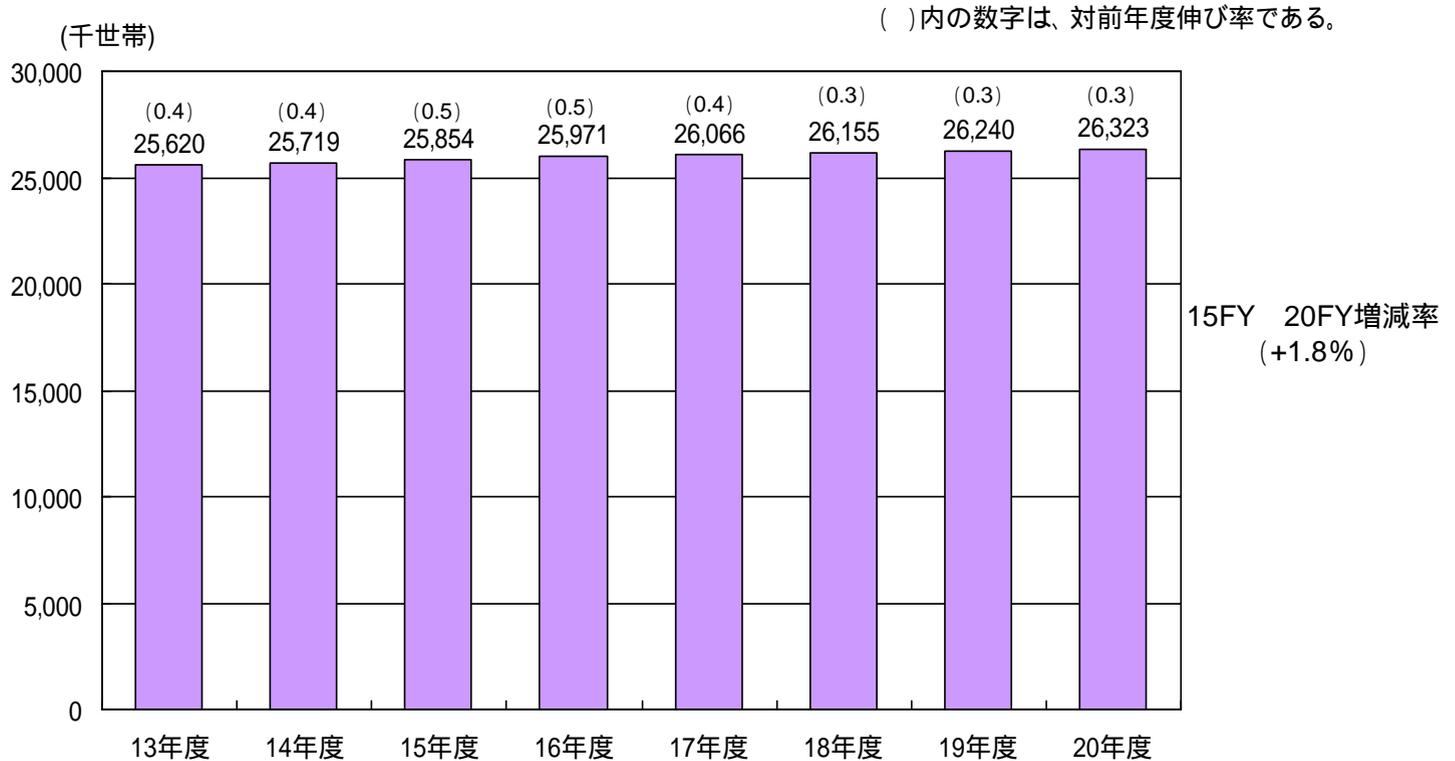
平成15年度については「実績見込み」であり、平成16～20年度については「見通し」である。

家庭・業務用 LPガス世帯、器具普及率、GHP普及台数等により想定



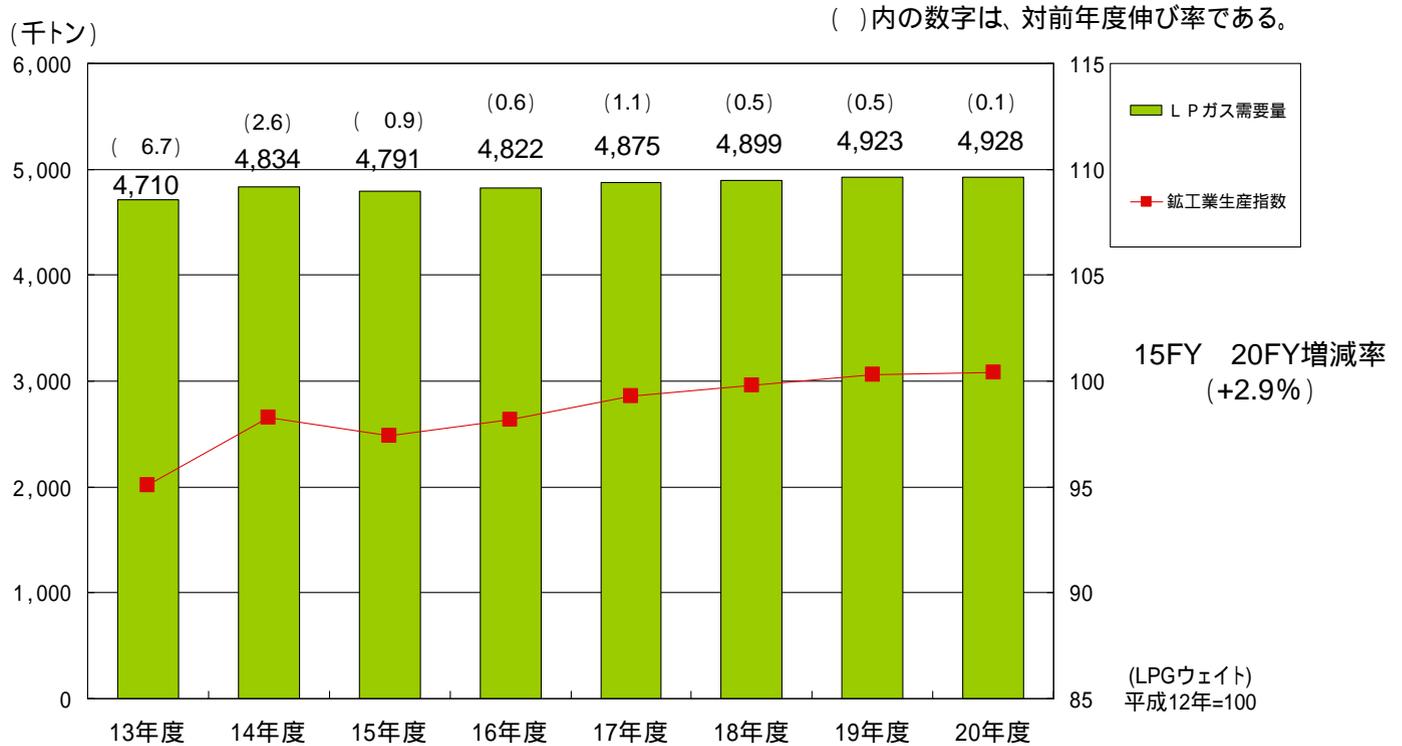
家庭業務用は、家庭用を中心に増加すると見込まれ、16年度は前年度比0.2%増で7,835千トンとなる見通し。17年度以降は、15～20年度の年平均伸び率0.9%で増加し、20年度は8,177千トンとなる見通し。

LPガス世帯 国勢調査等により想定



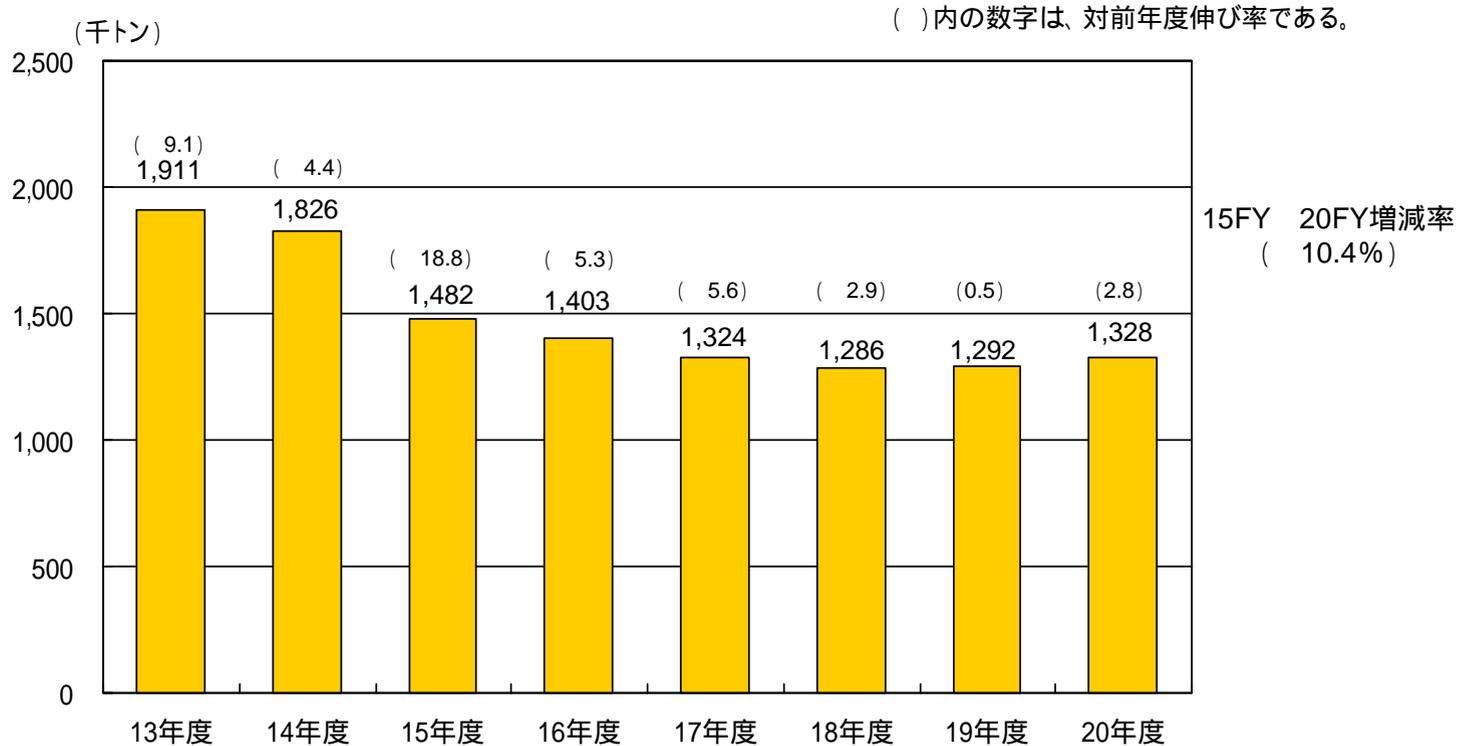
LPガス世帯は、16年度は前年度比0.5%の増で25,971千世帯となる見通し。17年度以降は15～20年度の年平均伸び率0.4%で増加し、20年度は26,323千世帯となる見通し。

工業用 鉱工業生産指数等により想定



16年度は、前年度比0.6%増の4,822千トンとなる見通し。17年度以降は、15～20年度の年平均伸び率0.6%と増加して、20年度は4,928千トンとなる見通し。

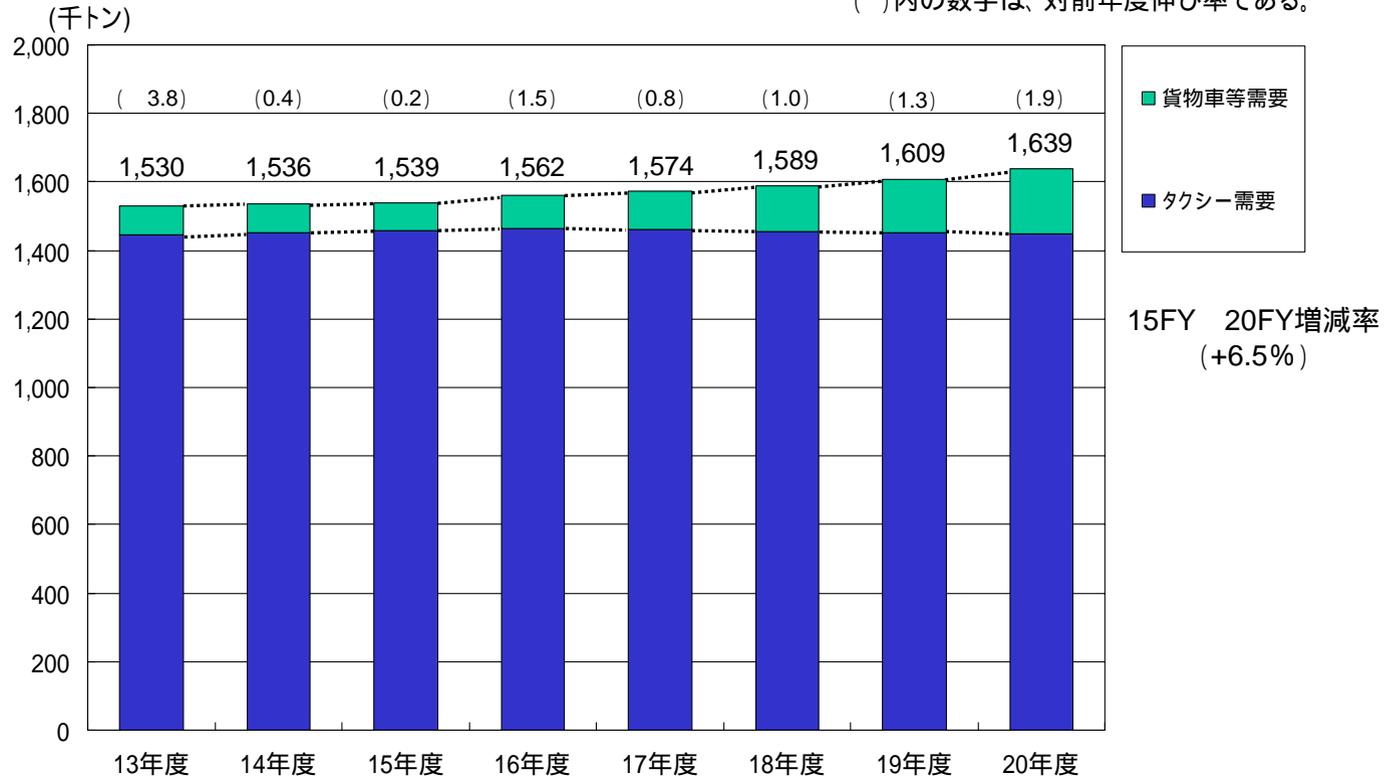
都市ガス用 都市ガス販売量、原料構成等により想定



16年度は、前年度比5.3%減の1,403千トンとなる見通し。17年度以降は、15～20年度の年平均伸び率2.2%で減少し、20年度は1,328千トンとなる見通し。

自動車用 LPガス自動車台数、原単位等により想定

()内の数字は、対前年度伸び率である。

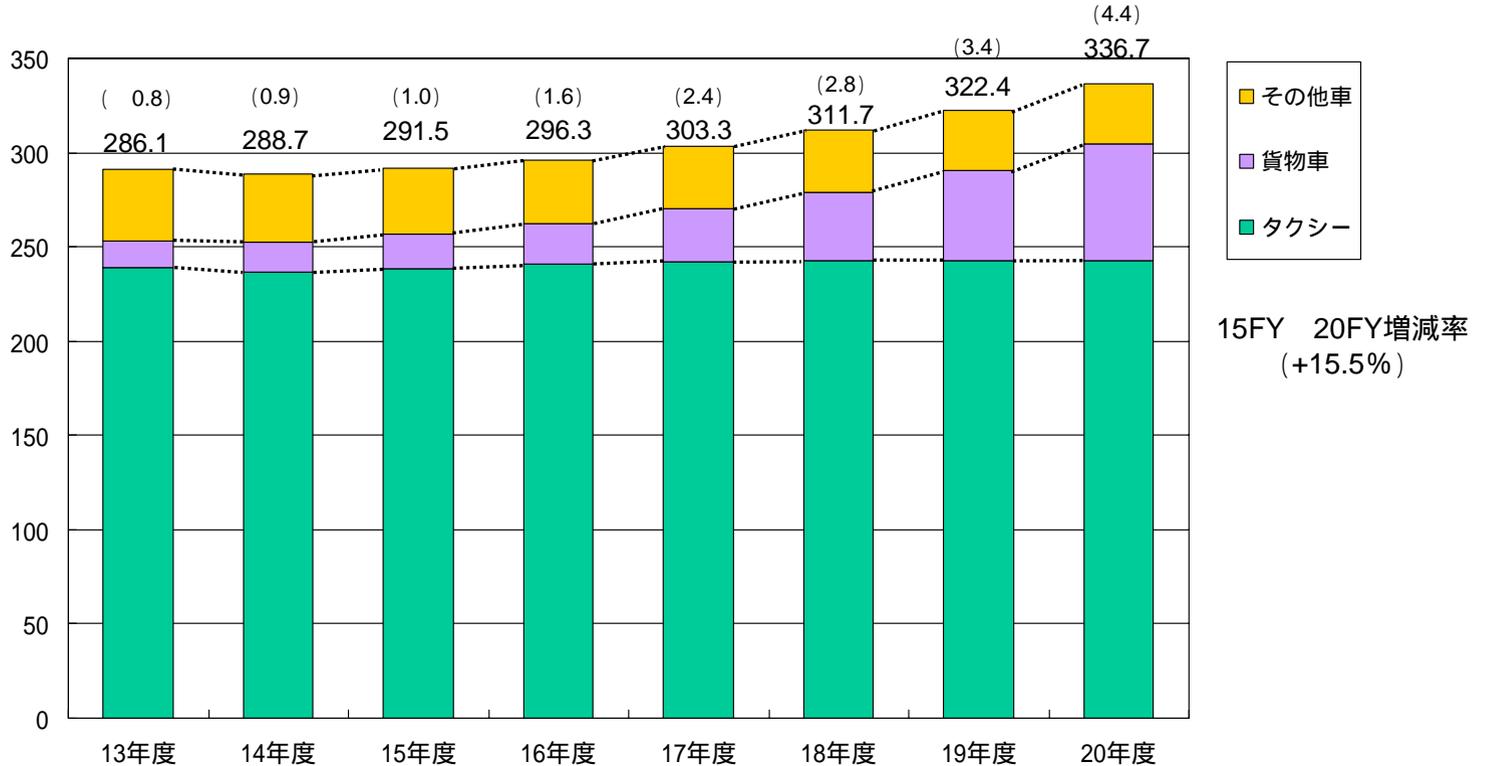


16年度は、対前年度比1.5%増で1,562千トンとなる見通し。17年度以降は、15～20年度の年平均伸び率1.3%で増加し、20年度は1,639千トンとなる見通し。

LPガス自動車台数 自動車保有車数等により想定

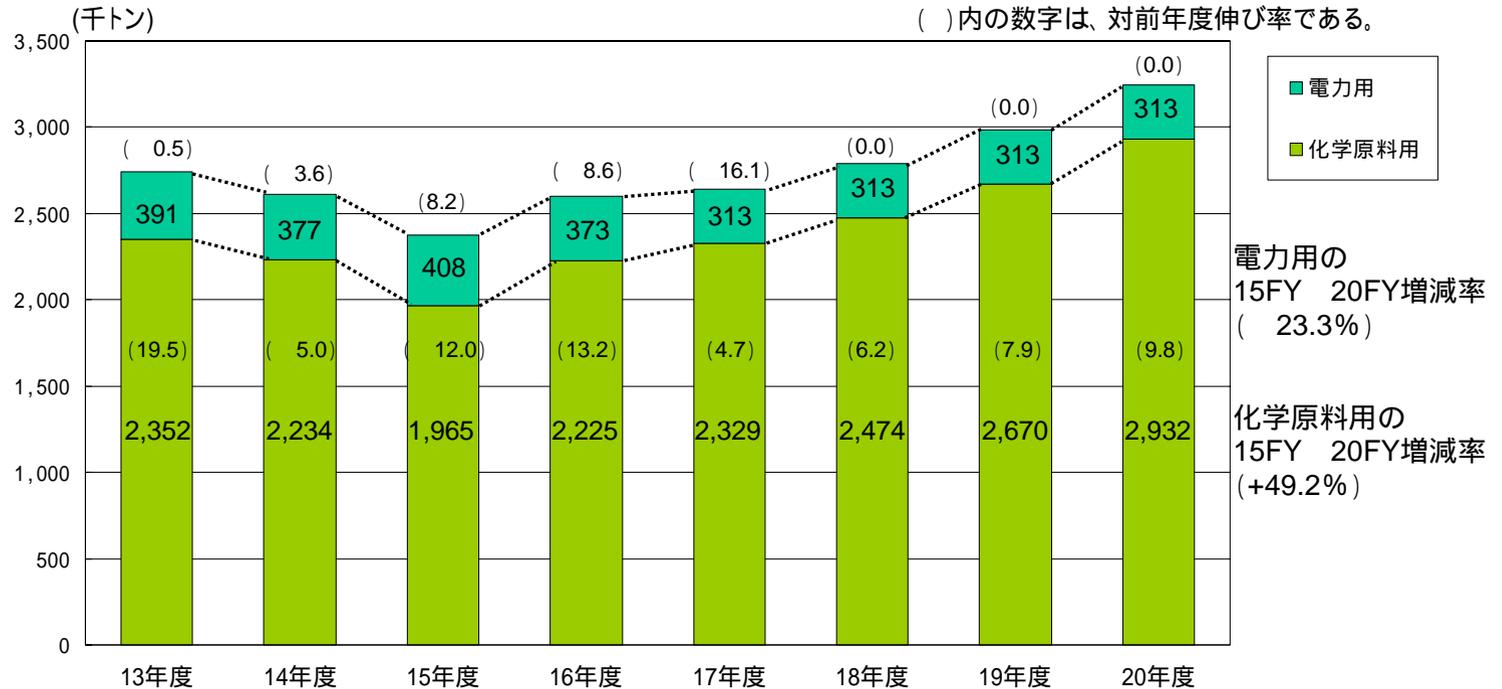
(千台)

()内の数字は、対前年度伸び率である。



16年度は、対前年度比1.7%増で296.3千台となる見通し。17年度以降は、15～20年度の年平均伸び率2.9%で増加し、20年度は336.7千台となる見通し。

化学原料・電力用



【化学原料用】

16年度は、対前年度比13.2%増で、2,225千トンとなる見通し。17年度以降は、15～20年度の年平均伸び率8.3%で増加し、20年度は2,932千トンとなる見通し。

【電力用】

16年度は、対前年度比8.6%減で373千トンとなる見通し。17年度以降は、15～20年度の年平均伸び率5.2%で減少し、20年度は313千トンとなる見通し。

平成16～20年度液化石油ガス需要見通しの概要

1. 液化石油ガス需要

平成16年度

- ・ 家庭業務用は、LPガス世帯の伸び、LPガス器具普及の進展等により需要の増加が見込まれ、また景気回復に伴う産業用分野での増加、更に化学原料用は石化会社における原燃料多様化により需要の増加が見込まれる。
- ・ 一方、都市ガス用は、中小都市ガス会社における熱量転換に加え、大手都市ガス会社の増熱用需要の減少により、需要の減少が見込まれる。
- ・ これらにより、対前年度比1.2%増の18,220千トンと見込まれる。

平成17年度～20年度

- ・ 平成17年度以降も家庭業務用及び化学原料用は引き続き堅調に推移することが見込まれる。また、自動車用は燃費の改善が見込まれるものの、規制緩和によるタクシー台数の増加、環境問題へ対応するため貨物車の増加が見込まれることから堅調な増加で推移し、工業用についても、生産活動の活性化に伴い増加することが見込まれる。
- ・ 一方、都市ガス用は、中小都市ガス会社における熱量転換が引き続き進展するが、転換も18年度でほぼ終了し、その後は都市ガス販売量の増加に伴い、LPガス消費量も増加に転ずることが見込まれる。
- ・ これらにより、平成15年度から20年度までの5年間の平均伸び率は1.4%と堅調な伸びとなり、平成20年度の総需要は19,317千トンになると見込まれる。

2. 部門別需要状況

家庭業務用

平成16年度

- ・ LPガス世帯数の増加、主要機器の普及率の上昇等により、需要の増加が見込まれる。
- ・ これらにより、対前年度比0.2%増の7,835千トンと見込まれる。

平成17～20年度

- ・ 引き続きLPガス世帯数の増加、家庭用ガスエンジンコージェネレーション機器の普及に伴う1世帯当たりの消費原単位の増加が見込まれるため、需要は堅調に推移すると見込まれる。
- ・ 業務用のGHPについて効率向上による消費原単位の減少や買い換えによる普及の鈍化はあるものの、マイクロガスタービン、マイクロガスエンジン等の新規需要も見込まれる。
- ・ これらにより、平成15年度から20年度までの5年間の平均伸び率は0.9%となり、平成20年度の需要は8,177千トンと見込まれる。

工業用

平成16年度

- ・ 他燃料への転換等があるものの、生産活動の伸びにより、需要は増加するものと見込まれる。
- ・ これらにより、対前年度比0.6%増の4,822千トンと見込まれる。

平成17～20年度

- ・ 省エネ等による消費原単位の減少があるものの、生産活動の活性化等から、需要は増加傾向で推移するものと見込まれる。
- ・ これらにより、平成15年度から20年度までの5年間の平均伸び率は0.6%となり、平成20年度の需要は4,928千トンと見込まれる。

都市ガス用

平成16年度

- ・ 都市ガス販売量の増加は予想されるものの、中小都市ガス会社における熱量転換に加え、大手都市ガス会社の増熱用需要の減少により需要減少が見込まれる。
- ・ これらにより、対前年度比5.3%減の1,403千トンと見込まれる。

平成17～20年度

- ・ 引き続き工業用を中心に都市ガス販売量は増加することが予測され、更に、中小都市ガス会社の熱量転換も平成18年度でほぼ終了することから、その後は都市ガス販売量の増加に伴い、LPガス消費量も増加に転ずることが見込まれる。
- ・ これらにより、平成15年度から平成20年度までの5年間の平均伸び率はマイナス2.2%となり、20年度の需要は1,328千トンと見込まれる。

自動車用

平成16年度

- ・ 規制緩和によるタクシー台数の微増、また環境問題へ対応するため貨物車の増加が見込まれることから、需要の増加が見込まれる。
- ・ これらにより、対前年度比1.5%増の1,562千トンと見込まれる。

平成17～20年度

- ・ エンジン性能向上等による原単位減少が着実に進むものの、引き続きタクシー台数が微増傾向で推移し、また宅配業者等での貨物車の増加も見込まれること等から、堅調傾向で推移することが見込まれる。
- ・ これらにより、平成15年度から平成20年度までの5年間の平均伸び率は1.3%となり、20年度の需要は1,639千トンと見込まれる。

化学原料用

平成16年度

- ・ 石油化学業界のエチレン用途における原燃料多様化による需要の増加が見込まれる。
- ・ これらにより、対前年度比13.2%増の2,225千トンと見込まれる。

平成17～20年度

- ・ 17年度以降においても、エチレン用途における原燃料多様化の進展による需要増が見込まれる。
- ・ これらにより、平成15年度から平成20年度までの5年間の平均伸び率は8.3%となり、20年度の需要は2,932千トンと見込まれる。

電力用

平成16年度

- ・ LPガスを消費している電力会社3社の利用計画に基づき、需要の減少が見込まれる。
- ・ これらにより、対前年度比8.6%減の373千トンと見込まれる。

平成17～20年度

- ・ LPガスを使用する火力発電所の新規立地は計画されておらず、LPガスを消費している電力会社の利用計画に基づき、一定数量で推移すると見込まれる。
- ・ これらにより、平成15年度から平成20年度までの5年間の平均伸び率はマイナス5.2%となり、平成20年度の需要は313千トンと見込まれる。